

2024 年1月 31 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文

潰瘍性大腸炎患者の QOL とヘルスリテラシー・
自己効力感との関連：横断的研究

The Relationship of Quality of Life with Health
Literacy and Self-Efficacy among Patients
with Ulcerative Colitis: A Cross-Sectional Study

学籍番号 20MN301

氏名 飯沢 まさみ

I. 目的

本研究は、これまで明らかにされていない日本で治療を受けている潰瘍性大腸炎 (Ulcerative Colitis: UC) 患者のヘルスリテラシー (Health Literacy: HL) を調査すること、その上で UC 患者の属性、HL、自己効力感 (Self-Efficacy: SE) と QOL との関係を分析し、UC 患者の QOL への影響要因を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

本研究はインターネットを用いた横断調査である。対象は UC と診断された 18 歳以上の軽症～中等症の外来患者とし、関東近郊の医療機関 3 施設、ならびに全国で活動している患者会 4 団体に機縁法にて協力を依頼した。質問紙は QOL:日本語版 Short Inflammatory Bowel Disease Questionnaire (以下 SIBDQ)、HL: Functional, Communicative and Critical Health Literacy Scale (以下 FCCHL)、SE:日本語版 Inflammatory Bowel Disease Self-Efficacy Scale(以下 IBD-SES.J)を使用した。QOL を従属変数、属性、HL、SE を独立変数とし、因子間の関連を分析した後、重回帰分析を行った。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の審査を受け、承認を得た上で行った。(承認番号:22-AC119)

III. 結果

2023 年 4 月 21 日から 10 月 31 日までに、本調査に対する同意が得られた 224 名を分析対象とした。各スコアの中央値は、SIBDQ56 (範囲 14～70)、FCCHL44 (範囲 22 ～ 56)、IBD-SES.J156 (範囲 68～281) であった。IBD-SES.J のみが正規分布を示した。SIBDQ 総スコアは IBD-SES.J 総スコアと有意な正の相関を示した ($r=0.441$ 、 $P<0.001$) が、SIBDQ 総スコアと FCCHL 総スコアは有意な相関を示さなかった。($r=-0.049$ 、 $P=0.464$)。また、IBD-SES.J 総スコアと FCCHL 総スコアも有意な相関を示さなかった ($r=0.054$ 、 $P=0.42$)。次に、SIBDQ 総スコアを従属変数、対象属性、HL、SE を独立変数としステップワイズ法を用いて重回帰分析を行った。その結果、「年齢」「学歴」「現在の病状」「情報資源の数」「機能的 HL」「病状と病気の管理」の 6 つの変数が抽出された ($R=0.744$ 、 $R^2=0.541$)。

IV. 結論

本研究は、日本で治療を受けている UC 患者の HL を調査した最初の研究である。また、UC 患者の SE を疾患特異的尺度で測定し、QOL との関連を検討した最初の研究でもある。本研究では軽症～中等症の UC 患者の QOL に影響を与える影響要因について、6 つの変数を抽出しモデルの一つを示すことができたと考えられる。